

(平成 29 年 6 月試験研究業務月報)

試験研究課題：漁業と遊漁を包括した総合的資源管理方法の開発

研 究

水中テレビカメラを用いて魚礁※を調査

海洋センターでは、釣・延縄漁業の資源管理を推進するため、漁獲状況の把握や資源管理効果の検証を行っています。その一環として、6月14日に海洋調査船平安丸により、釣・延縄漁業の主要な漁場である天然魚礁において、自走式の水中テレビカメラロボット（ROV**）で、魚礁の形状やそこに生息する魚類の調査を行いました。

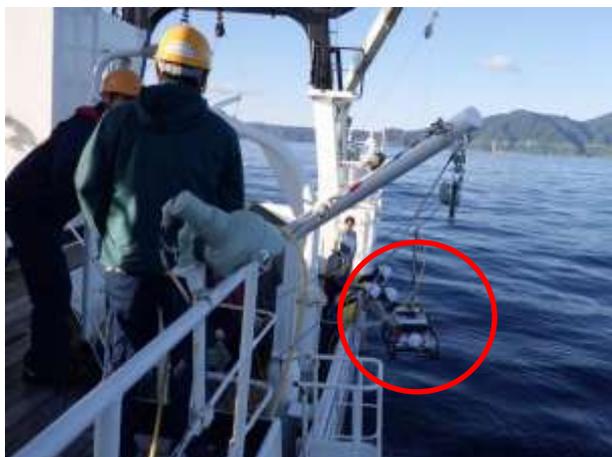
ハイビジョンカメラで撮られた鮮明な映像から、水深 50～110 m の天然魚礁周辺でイサキ、アカアマダイ、キダイ、ブリなど多くの魚種が集まる様子が確認できました。また、海底の地質や地形、魚礁の大きさなども把握することができました。

今回撮影した映像は、魚礁の機能や魚類の生態などを調べるための貴重なデータであるとともに、現場で実際に操業されている漁業者等に魚群探知機では分からない魚礁や海底の状況、魚種による分布の違いなどを見ていただくことで、漁の仕方や資源管理などに役立てていただきたいと思います。

※ 魚礁：海底から突き出た岩山のような隆起部分のこと。魚が多数集まり、良好な漁場となる。

※※ ROV：Remotely Operated Vehicle 遠隔操作無人探査機の略。

本調査では広和株式会社製の機器を使用。



ROV（赤丸内）投入の様子



天然魚礁に群がるイサキ

海洋センター